

新しい交通体系を

導入に向けて検討されるデマンド交通システムとは

戸口から戸口を結ぶ公共交通

総社市地域公共交通会議（山口久子会長）が8月30日、総合福祉センターで開かれ、市内の新しい交通体系は総社市流を取り入れたデマンド交通システム方式（予約型乗り合いタクシー）で、今後検討を進めることが決まりました。今月は、そのたたき台となる骨格を紹介します。

見 直しが必要であるとされた交通体系の新たな体系として8月30日、市はデマンド交通システムの骨格を地域公共交通会議に提案しました。

同会議は、バスやタクシーの事業者や市内の各種団体の代表らで構成。委員13人が、提案された内容を審議し、デマンド交通システムを中心とした新しい交通体系を構築することを確認しました。

デマンド交通システムは、来年4月の導入を想定。これに必要車両は10台程度を想定しています。デマンド交通の導入により、既存の路線バスのうち市内のみを走る「総社―新本線」「総社―山手循環線」「美袋―木戸線」「美袋―稿線」を運行する事業者への補助金と、来年3月末で試行期間が終了するコミュニティバス「総社こまわりくん」を廃止。これらの路線のなかで、通勤や通学の時

だれでも簡単に利用することができ、上のイラストのように戸口から戸口を結ぶ公共の乗り物です。買い物や外出で利用したいときは、事前に乗車時間と乗車場所、目的地を電話で予約します。

全国の先進地の例では、市内を数か所の区域に分け、市街地と各区域を結ぶ運行をしています。また、主に平日の午前8時から午後5時までの1時間ごとの運行をしているところが多くなっています。今後、こ

れらを参考に、運行方法や利用時間帯などの詳細を検討。これに必要な車両は10台程度を想定しています。

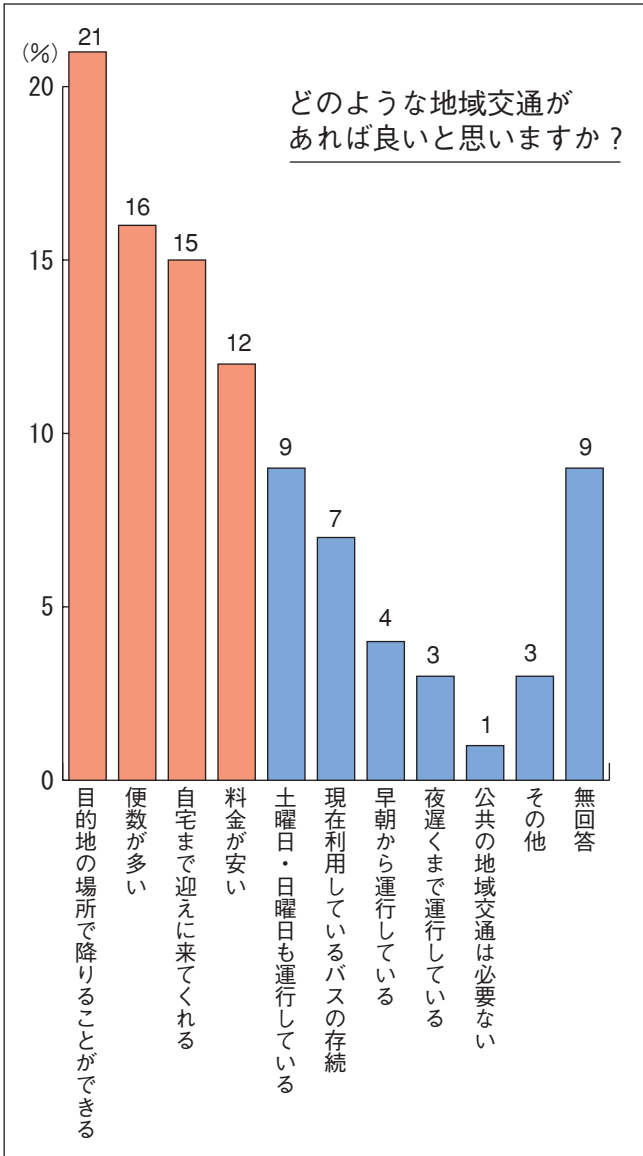
デマンド交通の導入により、既存の路線バスのうち市内のみを走る「総社―新本線」「総社―山手循環線」「美袋―木戸線」「美袋―稿線」を運行する事業者への補助金と、来年3月末で試行期間が終了するコミュニティバス「総社こまわりくん」を廃止。これらの路線のなかで、通勤や通学の時

間帯で利用の多い朝夕は、停留所方式による別の方法で対応する方針です。

市内だけでなく他の市町も走るバス路線と、山手ふれあいタクシーは存続する方向です。

今後同会議では、導入するために必要な運営主体や運賃、存続バス路線とのすみ分け、観光客の利便性をなどを総合的に検討し、デマンド交通システムを中心とした新しい総社流の交通体系の構築を図ります。

今後同会議では、導入するために必要な運営主体や運賃、存続バス路線とのすみ分け、観光客の利便性をなどを総合的に検討し、デマンド交通システムを中心とした新しい総社流の交通体系の構築を図ります。



交通手段や不便に思うことなど問い、解決すべき課題を把握するため、「交通手段に関するアンケート調査」を7月から8月にかけて実施しました。アンケートは、無作為に抽出した65歳以上の人がいる2900世帯に対し郵送で行い、1939世帯（回収率67%）から回答をいただきました。

3分の2がデマンド交通を望む

交通での移動に不便を感じている人がいる世帯は43%で、7割以上が高齢者でした。

自動車の運転をしない世帯が3分の2を占め、買い物や通院の交通手段は、ともにタクシーや家族の送迎などが上位です。バスの利用はしないとの答えが約半数で、バスを利用しないのは、利用したい路線や便がないと答えています。

求める公共交通は、「料金が安い」「便が多い」「目的地で降りられる」「自宅まで迎えに来てくれる」が全体の3分の2を占めました。この結果は、戸口から戸口を結ぶデマンド交通システムの運行形態と合致する内容でした。

ご意見や問い合わせは、**人権・まちづくり課 安全安心係**（☎92-8249）まで